

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、
次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	石清尾山古墳群調査整備会議 第1回整備部会
開催日時	平成29年8月25日(金)13時30分～17時 (午前中に国史跡石清尾山古墳群を現地視察し、その後、午後に埋蔵文化財センターで会議)
開催場所	高松市埋蔵文化財センター2階 講座室
議 題	議題1 整備部会長の選出 議題2 整備事業の経緯・経過と史跡等の現況について 議題3 調査及び事業計画について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	広瀬委員(国立歴史民俗博物館名誉教授)、大久保委員(徳島文理大学教授)、山中委員(香川大学教授)、林委員(兵庫県立大学大学院准教授)、信里オブザーバー(県教委主任文化財専門員)
欠席者	上杉委員(京都府立大学准教授)
傍聴者	0人(定員10人)
担当課及び連絡先	文化財課(文化財調査係) 823-2714

審議経過及び審議結果

審議経過及び結果

議題1～3を設定し、主に委員から以下の内容の指導・助言を得た。

議題1 整備部会長の選出

(事務局からの説明)

- ・本事業を推進するなかで、調査・整備の事項について、すでに設置している専門部会である調査部会と整備部会にそれぞれ助言を得る。
- ・整備部会は、整備全般に関する助言を得るために昨年度に設置した専門部会である。第1回目の本会議において、整備部会長の選出が必要である。

(結果)

- ・整備部会の部会長は広瀬委員に決定した。

議題2 整備事業の経緯・経過と史跡地等の現況について

(事務局からの説明)

- ・本会議では、今後作成を予定している史跡整備の基本方針等をまとめる『保存活用計画』のうち、「現状・課題」と「現状変更の取扱い」について報告する。保存活用計画は、平成31年度の策定を目標とし、今回の会議で核となる「大綱・基本方針」(案)を提示する。
- ・本事業は、第6次高松市総合計画で示された「まちづくり戦略計画」の重点取組事業に位置付けられており、本市の施策上でも重要な位置付けがなされている。
- ・本市では、平成9年度に本古墳群の史跡整備に関する委員会を設置し整備基本計画を作成するなどしていたが、諸般の事情で委員会運営が中断している。

審議経過及び審議結果

- ・これまでの事業では、文化庁が策定を推奨する「保存活用計画」が策定されていないため、今後作成する必要がある。また、かつて作成した整備基本計画の基本構想等が現在の史跡の現状等にそぐわない点が見られるなど、既存の整備基本計画を改定する必要があると考えられる。
- ・これまでの国史跡指定の経過で、当初予定していた古墳の指定が行われていないなどの課題が存在する。
- ・今年度に稲荷山地区の国史跡追加指定を計画しているが、土地所有者から指定の同意を得るために、先行して史跡の現状変更の取扱いの見通しを協議している。その現状変更の取扱いについて助言をいただきたい。

(委員からのコメント等)

- ・整備事業の対象はどこまでなのか、どのような方向性で整備事業を進めるのかを検討すべきである。
- ・市として、どのような体制で、どこまでの整備事業を実施したいのか示してもらう必要がある。
- ・次回会議では、どのような体制で行うのか、どのような予算措置を行うのか、既存の委員会の総括（課題）、以上を整理して、長期・短期的な到達目標を明確に示して欲しい。
- ・現状変更の取扱いについて、範囲を区分しているが、すべての古墳で墳丘の範囲が判明しているわけではなく、古墳によっては堀切などの外部施設が存在する可能性があるため、その点を検討すべきである。
- ・現状変更の取扱いを把握するためにも、各古墳の管理図（指定範囲・形等を記載した図）の作成が必要である。赤色立体地図を用いて、作成する必要がある。
- ・現状でできることを実施して欲しい（公園管理事務所などでの普及パンフレットの積極的な配布等）。

議題3 調査及び事業計画について

(事務局からの説明)

- ・平成31年度に保存活用計画の策定、同32年度に整備基本計画の改定を行う予定である。
- ・今年度に、山塊の利用実態調査を行っている。現状の調査状況は、健康維持のための登山利用が多いという傾向がある。
- ・平成30年度には、予算措置が出来れば史跡指定地の境界測量、姫塚古墳の測量調査、石船塚古墳石棺の劣化状況に関する調査、シンポジウムの実施、パンフレットの作成等を実施したい。

(委員からのコメント等)

- ・山塊を楽しく散策するアイデアはないか、利用調査等で聞いてみるのも良いのではないか。
- ・古墳群全体を知ることができる冊子を作成すべきである。この冊子は、一般に販売することを念頭に検討すること（一般に広く普及するため）。